令和4年度 小林市立小林小学校 学校関係者評価書

4 段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者のコメント
学校経営 ビジョン	一人一人の子供に応じた指導と支援を行いながら知恵・声・汗を出す姿を「称賛・承認」することにより、 自ら考え行動できる（学び、思いやり、きたえる）子供の育成を図り、活気ある教育活動を通して家庭（保護者）・地域に信頼される学校をめざす。 みんなで一緒に成長しよう 学びいっぱい 思いやりいっぱい 元気いっぱい				
知育	<p>■ 自ら学ぶ子供の育成 ー学びいっぱいー</p> 主体的に思考、判断、表現することができる子供（①一人一人が地域や社会に関心をもつ ②課題について他と協力する） <p>■ 手段・ゴールイメージ</p> 1 学びたい度 2 「思考力・判断力・表現力」が高まる子供の育成 3 「主体的・対話的で深い学び」の場の確保 4 作品等発表の場の拡充・充実 5 ICT（タブレット等）の積極的活用	<p>○ 「小林小お昼のニュース」のコーナーを設置し、毎日、様々な分野のニュースを取り上げたことにより、地域・社会への関心が向上した。</p> <p>○ 地域の人材や教育資源を積極的に活用し、福祉学習、ふるさと学習、キャリア教育等に取り組むことができた。今後さらに、地域と学校が連携、協働して多様な活動を展開していきたい。</p> <p>○ 小中一貫教育推進モデル校研究公開に向けて、3校合同で全教科にわたって主体的、対話的で協働的な学びの実現に向けた授業改善に取り組み、その成果を公開することができた。各教科において、思考力・判断力・表現力の育成を目指した「授業プロセス表」を今後も有効に活用し、教師の授業力を向上させ、児童の学ぶ意欲、学力を高めていきたい。</p> <p>○ 短歌、俳句、作文、図画など多様な作品コンクールに積極的に応募して多数の賞を受賞した。昨年度を大きく上回る宮崎日日新聞掲載数（40名以上）を残すことができた。</p> <p>○ ICTの効果的な活用について実践が蓄積され、定着してきた。また、児童の情報活用能力も育成されつつある。今後、アナログのよさも見直し、鉛筆の正しい握り方の定着に向けて指導を継続していきたい。</p> <p>○ 全国学力調査、県学力調査、CRTテストで、全国平均を越える学力を身に付けさせるために、分析と改善策を協議して学校全体で進めていく必要がある。児童自ら課題を見つけ、計画を立てて学習する態度を育成していきたい。</p>	2.8	2.8	<p>○ 児童が楽しく学校に行くことができ、「学ぶ」気持ちをもてる授業への改善は努力されていると思います。</p> <p>○ 「お昼のニュース」の設置は人の話を聞く姿勢ができ、社会への関心向上につながり評価できます。</p> <p>○ ICT活用についてはスムーズに問題なく取り組んでいると思うが、逆にえんぴつの持ち方や習字などの方が衰えてくるような気がする。どちらも大事になるので大変だと思います。</p> <p>○ 宮日新聞掲載は、多数応募し、入選するなど全校生徒のお手本になり評価できます。</p> <p>○ 現在の学習内容は多岐にわたるとともにレベルも高くなっていると思います。教育の格差が話題になる中で、全国学力調査の結果を十分に分析して学力の向上・確かな学力の定着に向けた指導の工夫と児童の家庭学習への意欲を喚起させる手立てを模索して学力の向上に努めていただきたいです。</p> <p>○ 地域への関心は福祉学習、郷土学習によって向上しているようです。</p> <p>○ 地域の人材、教育資源の活用、関係団体との連絡を図り、子供達が自分の生まれ育った小林を知り、小林を好きになって将来どこで生活しても故郷小林に自信と誇りをもって、小林の応援団として生きていけるふるさと教育を推進していただきたいです。</p> <p>○ 教師も地域活動、地域での行事に積極的に参加して地域住民との交流を図りながら小林の風土を肌で感じてそれを日常の教育指導に生かしていただきたいです。まずは、地域を知ることが大切</p>
徳育	<p>■目標 自ら思いやる子供の育成 ー思いやりいっぱいー</p> よりよい人間関係を築くことができる子供（①一人一人が相手意識をもつ ②主体的に思いやりのある適切な言動をする） <p>■手段・ゴールイメージ</p> 1 相手を意識したあいさつ、返事、廊下歩行ができる子供 2 自他の人権を大切にし、よさを認め、「さん」付けで呼ぶ子供 3 いじめの未然防止・早期発見、いじめ・不登校の解消率向上	<p>○ スクールワイドPBSの研修を行い、称賛と承認による行動支援に取り組んだことで、あいさつや会釈などにより変容が見られた。計画委員会を中心にして、「あいさつ運動」に主体的に取り組むことができた。</p> <p>○ 返事、廊下歩行については、委員会を中心として、児童自ら課題をもち、解決方法を話し合う場を設定して取り組ませていきたい。</p> <p>○ 年度初めに、人権に関する職員研修を行い、共通実践事項を確認した。「西諸みんなで人権を考える取組」を学校全体で取り組むとともに、家庭とも連携することで人権意識を高めることができた。また、学習指導等支援教員が6年生の学級活動において人権の大切さについて指導する授業実践を行うことができた。</p> <p>○ 毎月のこすもす委員会で気になる児童の対応策を学年で協議し、3ヶ月の見守りを継続した。不登校、不登校傾向の児童について、関係機関、SC等とも連携しながら対応してきた。改善が見られた児童もいたが、課題も多く残っている。引き続き、魅力ある学校づくりに取り組み、不登校児童の解消を図っていく必要がある。</p> <p>○ いじめの未然防止の取組について、保護者と教師の意識に差がある。さらに、人権尊重を基本として、いじめの未然防止、早期発見、対応に取り組んでいく必要がある。</p> <p>○ いじめの積極的な認知を行い、複数の職員で組織的に対応を協議し、早期解決に向けて取り組んできた。</p> <p>○ 貸出冊数が増加しているので、学校図書館の機能を充実し、さらに読書が好きな児童を増やしていきたい。</p>	3.2	3.2	<p>○ 楽しい学校になっているのは喜ばしいことです。挨拶はなかなか身に付かないと思いますが、人権意識に直接結びつく行動だと思うので、今後も取り組んでもらいたいです。</p> <p>○ いじめや不登校に対して、保護者が相談しやすい雰囲気为学校全体に醸成していただきたいです。</p> <p>○ 本年度もコロナ禍の中での学校生活となりました。子供一人一人の表情がマスクで見にくいと思いますが、注意深く一人一人に寄り添ってほしいです。</p> <p>○ いじめの未然防止に取り組んでいるかについて保護者と教職員での感じ方に若干温度差を感じます。コロナ等での欠席や制約もあり、今まで以上に難しいことと思いますが、共に取り組んでいけるように保護者にも伝えていけたらよいと思います。</p> <p>○ 不登校児の改善が見られたことは評価できますが、まだまだ不登校児への早期対応が必要となります。</p> <p>○ 教師の働き方改革について、改革の狙いに迫る取組をお願いします。</p> <p>○ 図書館の利用が増えているのは、子供の好奇心の表れであり、ますます努力をお願いします。</p> <p>○ 本の貸出冊数が増えているようで、継続してほしいです。</p>